

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年 10月 7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492100031		
法人名	口和福祉会		
事業所名	グループホーム口和		
所在地	庄原市口和町永田413番地 (電話) 0824-89-2700		
自己評価作成日	令和6年8月30日	評価結果市町受理日	令和6年11月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3492100031-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3492100031-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年9月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

毎日、元気に楽しく過ごしてもらえよう、毎日の散歩、余暇活動や行事に力を入れ取り組んでいます。お一人おひとりの気持ちに寄り添いケアに繋げ、ここで暮らせて良かったと思ってもらえる居場所になれるように職員一同力を合わせて頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は理念のもとに具体的な年間目標を定め、職員の対応や利用者の行動変容にてその達成度を検証している。例えば利用者の行動変容に関して、家族と一時外出後、帰ろうと言うと利用者は前は「どこに？」と言っていたが、今は「事業所に帰る」と自分の居場所の理解に繋がっている。また地域交流については日頃から散歩等で地域住民と挨拶をしているが、日課の散歩コースは本人の体調と希望に沿って実施し、スーパーでの買い物等、目的のある散歩により自立に向けた生活リハビリを実践している。利用者は地域行事のモーモー祭りに展示された自作の壁掛け作品を見るために参加している。また事業所行事に日本舞踊のボランティアの受け入れ等、相互交流を行い、地域の小学校・高校の福祉学習や中学生の職場体験等への協力を通して世代間交流にも取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	口和福祉会の理念は「小さな気遣いが大きな安心へ」です。理念をもとに年間職員目標「お一人おひとりの気持ちに寄り添い、安心して笑顔で過ごせる毎日をつくりまします。」と立てました。また、各職員は年間個人目標を立てている。毎日安心して笑顔で過ごして頂けるよう、小さな気づきや変化を気づきノートや申し送り時等で共有し、ケア方法を職員皆で考え、チームで統一したケアを実践している。	法人理念を事業所理念とし、実践上の道標として掲示し周知に努めている。その理念のもとに具体的な事業所年間目標を定め、職員の対応や利用者の行動変容にて年度末に検証をしている。職員も理念に沿った年間目標を設定し、管理者との年1回の個人面談で理念の達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	小中学生とオンラインでの交流会を実施している。又、中学生の職場体験学習やボランティアの受け入れも行っている。季節ごとに制作している壁画作品を地域のお店に展示させて頂き、グループホーム口和の活動を地域の方にも見て頂いている。	日頃から散歩等で地域住民と挨拶を交わしたり、モーモー祭り等の地域行事に利用者と参加したり、事業所行事に日本舞踊のボランティアの受け入れ等、相互交流を行っている。又、地域の小学校・高校の福祉学習や中学生の職場体験等への協力を通して世代間交流にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域のサロンや小学校の福祉学習の講師、認知症サポーター養成講座を通じて地域の方々に認知症の理解や支援の方法をとともに学んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	感染症予防の為、1開催1家族ごと参加をお願いし、市の保健師等へ参加をお願いしている。状況報告や、喫茶会を開き、意見を頂いている。参加できないご家族へはお便りにて報告している。	会議は利用者、口和支所保健師、時に家族等が参加し隔月に開催している。近況・行事・意見交換等を行い、保健師・法人の専門職がミニ勉強会を開催している。利用者から自作の作品展に再度行きたいとの要望が出ている。参加できない家族には議事録を送付し運営状況の共有を図っている。	ミニ勉強会・参加できない家族に対し議事録送付等の工夫はあるが、家族・地域住民の参加は少なく意見交換があまりできていない。今後は多様な職種の参加促進や事故・ヒヤリ報告等、議題の工夫を通して、多様な視点によるサービスの検証が可能な仕組み作りを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	月1回開催される地域ケア会議に出席して情報交換や関係機関との連携に努めている。	運営推進会議には口和支所職員が参加し情報共有をしている。事業所職員が認知症サポーター養成講座の講師を務めたり、地域の小学校・高校の福祉学習に協力している。市町主催の地域ケア会議や虐待研修会に出席したり、市グループホーム連絡協議会に参加して連携強化に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について研修を通じて知識を深め身体拘束防止に努めている。施錠については夜間のみ安全面を考慮し玄関の施錠をしている。</p>	<p>3か月毎の身体拘束予防委員会や年2回の研修会等を通して職員は「拘束はしない」必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。不適切なケアに対しては職員は申し送り時や気づきノートで共有している。日中は玄関を施錠せず、玄関の開閉感知機器による見守り等で対応している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体拘束について研修を通じて知識を深め身体拘束防止に努めている。施錠については夜間のみ安全面を考慮し玄関の施錠をしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>関係機関と連携を取りスムーズに安心して利用して頂けるよう支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>分かりやすい言葉で説明をし、不安な点や疑問などを尋ね安心して納得して頂けるよう丁寧な説明を心がけ努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者及びご家族からの意見や要望についてはその都度伺っている。またその内容について情報共有できるように気づきノートに記入している。</p>	<p>利用者の要望は普段の会話を通し、家族とは面会時・電話連絡時・介護計画見直し時・運営推進会議等で管理者や職員が把握する様に努めており、申し送り時・気づきノート等に残し、職員間で共有している。家族からの要望で入浴時の同性介助につきシフト調整にて対応した例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各職員、業務担当を決めている。各業務担当のリーダーと打ち合わせをし、それぞれの担当職員とコミュニケーションをとり職員の意見を取りまとめ業務、運営に反映できるように取り組んでいる。	事業所は申し送り・職員会議・年1回又は随時の管理者との個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況等に対する支援体制をとっている。職員提案で夜間のみポータブルトイレの利用者が日中自分で片付ける負担を考慮して常時設置にした例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人全体で就業規則など見直しにより、時間外勤務の変更や年休を取りやすい環境作りを行い職員が気持ちにゆとりをもって働ける環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の個々の能力を十分に伸ばせるように、業務を通じてまた研修を受講して職員育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	庄原市グループホーム連絡協議会が実施する研修会に参加している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の面談で不安な事や要望等をお聞きする機会を持ち安心して頂けるよう努めている。入居後も24時間シート作成など、全職員で本人様が安心して生活できるように援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入所前にホームの見学や面談を行い、ご家族の困りごとや心配事、ご本人への思いや要望等を聞かせて頂き納得して安心してもらえるよう心がけ努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>サービス利用前のそれぞれの面談でのニーズから必要な支援を明確にし、他のサービスが必要な時は利用出来るよう対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>職員はご本人の想いを大切にして、住みやすく、その人らしく暮らせる環境を作る事や、お一人おひとりの役割を考えながら、日々の日常を楽しく共に送りながら関係を築いている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人の要望をご家族へ手紙や電話で直接伝え、協力してもらえる事はお願いして対応してもらい、難しい事は職員でフォローして共に支えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>他施設入所の家族への面会、かかりつけ医の継続受診、友人との手紙のやり取り、地元のイベントに参加してもらい繋がりを大切にしている。</p>	<p>現在は家族と居室又はホールでの直接面会が可能である。地域行事等で知人と挨拶を交わしたり、家族の協力も含め見舞いや墓参り等の外出を通して馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。馴染みの主治医への受診や年賀状の返信・電話等の支援例もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	人間関係に配慮した席の配置や散歩のグループ、利用者の得意な事を活かして協力したり助け合えるようにレクや役割を職員が間に入って一緒に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	関連施設に入所された方へ面会したり、ご家族からの相談があれば応じたり情報提供をしたりしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様が職員へ思いや希望が言えるよう信頼関係構築に努めている。定期的に行う24時間シート作成を行いながら一人ひとりの思いや気持ちを把握してその人が安心して生活ができるように取り組んでいる。	利用者毎に担当職員を決め、必要な情報は気づきノート等で共有して利用者の馴染みのある事が不安なく継続できる様支援している。状態が変動し易い利用者がパッドを外す行為は痛みや痒みを我慢して周囲に合わせる性格にあるのではと本人本位に考え、皮膚観察の介入に繋げた例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の面談時に色々質問し聞かせて頂き、入所後もご本人との会話の中や面会時にご家族や親戚の方からお聞きして情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	24時間シートを活用して1日の生活の様子を把握し、作業や散歩を一緒にしながら状態観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族、本人から聞き取りや職員からの気づきを反映し24時間シートを活用して介護計画書を作成している。</p>	<p>24時間シート・家族の意向等を踏まえた原案を毎月のカンファレンスで検討して本案とし、計画作成担当者が半年を基本にモニタリング・計画を見直している。健康管理や趣味の継続を立案の大事な視点とし、体調不良もあったが目の手術を受け、趣味の押し花を継続した立案例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日個別ケース記録にその日のご本人の様子を記録している。特記事項は日誌や気づきノートに記入して申し送り時に情報共有している。ケアの改善やプランの見直しに役立っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人やご家族からのニーズにはその都度職員で話し合い臨機応変な対応をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のイベントや学校行事、散歩、買い物、通院など地域資源を活用して地域の方々との繋がりの中で暮らしを楽しめるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご本人とご家族の希望されるかかりつけ医と連携して支援している。</p>	<p>利用開始前の主治医の受診継続も可能だが、全ての利用者は協力医を主治医としている。協力医や専門医への受診は主に事業所が行い、隣接協力歯科医へは散歩も兼ねて受診している。法人系列施設の嘱託医や看護師との連携による健康管理等、適切な医療が受けられる体制を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>関連施設の看護師と連携して相談しながら支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医師や看護師と入院時に必要な情報提供をしたり、利用者の状態を聞いて相談している。退院時はソーシャルワーカーと連携を取っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>グループホーム口和では看取りを行っていないことを契約時にお話して、生活をしていく中で重度化した場合は本人、家族、主治医と併設施設で本人の現状にあった生活環境を提供できるように取り組んでいる。</p>	<p>利用開始時、重度化に係る基本的な方針を説明し了解を得ている。看取りは行わないが、重度化した場合に備えて、入所・入院に向けた支援に取り組む方針である。又、重度化した際には指針に基づき、本人・家族・医師・職員と話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>研修を実施し看護師による講習会を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署の協力を得て火災避難訓練を年2回実施している。避難時、各部署が協力できる体制になっている。また、災害時には地域の方へも協力してもらえよう、地域住民、消防団へお願いをしています。河川氾濫時の避難場所は、隣接する当法人施設の2階、3階に避難する事となっている。</p>	<p>消防署の立会いのもと、地域の消防団・法人施設と合同で、又は事業所単独で夜間想定や利用者も参加して定期的に避難訓練を行っている。隣接法人施設は地域の指定避難所であり、災害時の一般的な協力要請を消防団等に行っている。災害時の備蓄等も隣接法人による統括管理となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人全職員対象の虐待防止に関わる研修を受け、言葉遣いや、不適切ケアについて学んでいる。また、認知症ケアの研修会を開催し認知症ケアについても学んでいる。	法人・事業所での接遇研修等で職員の幅広い知識の習得を図る体制もある。排泄等のプライバシーについても職員は利用者目線で対応し、状況に応じた見守り態勢や介助の際はタオルで覆う等の配慮をしている。利用者の前での申し送りは中止にする等、個人情報の扱いにも配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人に思いや希望を話してもらえるよう信頼関係を築いている。お一人おひとりの思いに寄り添えるようゆっくり話ができるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お一人おひとりの日常を大切に出来るよう、好きな事、苦手な事等を把握し、無理強いはいしない支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類はご本人が好きな服が着れるように一緒に選び着て頂いている。居室から出て来られる際には、必ず整容を行うようにしている。又、散髪してもらう時もご本人の好みに合うよう、要望をお聞きし、カットのお願いをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	現在、外部注文での食事提供となっている。盛り付けや配膳を手伝って頂いている。料理に彩りが必要な時は添え物を工夫し提供している。また、行事食の際には手作り食を取り入れるようにしている。	食事は外部業者に発注した食事を提供し、利用者は盛り付け等、できる役割を担っている。また食が楽しめる様、行事食のちらし寿司作り、月1回の喫茶会でワッフル作り等、寿司職人の来訪、地域住民宅でのミカン狩り等の工夫や食卓・イスの高さ等の環境を整備し、自立支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>お一人おひとり、食べられる量に合わせた盛り付けにしている。1日に必要な水分摂取量を個人の体重からわりだし目安にしている。水分摂取量が少ない方へは、少量ずつ好みの飲み物を準備し提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアを実施し、夜間は義歯を外してもらい洗浄剤につけている。口腔ケア時、見守り声かけを行っている。自歯や、義歯を確認し、必要な時は歯科医に相談し早めの受診を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>24時間シートを使用し個々の排泄パターンを把握している。お一人おひとりに合ったトイレへの声かけや、紙パンツ、パッド交換を行っている。又、必要時主治医に相談している。</p>	<p>24時間シート等により各人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を基本としている。排泄時の立位困難例に対しては福祉業者による環境整備と理学療法士による介助方法の助言により自立支援に繋がった経緯がある。利用者の状況に応じてセンサーマット導入等の取り組みを行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>お一人おひとりの体力を考慮した運動や水分量の確保を行っている。毎朝、朝食時にヤクルトを提供、便秘の方へは、乳製品の飲み物を個別に提供している。又、主治医へも相談している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>希望者には毎日入浴を実施している。湯の温度や入る順番、同性介助等、お一人おひとりの状態、希望に合わせた入浴介助を行っている。また、入浴剤を使用し香りや色を楽しんで頂いたり、ゆず湯で季節を感じて頂くこともある。</p>	<p>週3回の午後入浴が基本だが、希望により毎日の入浴も可能であり、利用者の体調や入浴習慣に合わせて柔軟に関わっている。入浴は半埋め込み式家庭浴槽での個人浴であるが、利用者の体の負担を考慮してシャワー浴や足浴で対応したり、寛げる様、冬至に柚子湯を提供することもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼寝の時間や、居室で自由に過ごして頂ける時間を作っている。少しでも安眠に繋がるよう自宅でお使いになっていた寝具を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医より薬の追加や変更等で薬の処方があった場合、主治医や、薬剤師からの薬についての情報を気づきノートに記載し申し送り時共有している。服薬確認は飲み忘れが無いよう、二重確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人おひとりの意欲や体力に合わせ、掃除、洗濯物干し等、役割を持って頂けるよう支援している。又、趣味や生活習慣を大切に、可能な限り継続出来るよう支援している。季節行事や誕生日会、喫茶会等、楽しんで頂ける事を企画している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日の散歩コースは、本人の希望に沿って行っている。ドライブ行事を企画し実施している。又、買い物、お墓参りやドライブ等、希望があった場合には、ご家族にも協力して頂いている。	日頃から希望により少人数で近隣散歩や普段は行けないようなモーモー祭り等の地域行事に参加し「非日常」を楽しんだり、季節毎の地域の移ろいを楽しめるよう花見・かかし祭り・リンゴ農園等に出かけている。又、家族の協力のもと、他施設に入所中の家族との面会等に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブル回避の為、原則お金の持ち込みは禁止している。欲しい物や必要な物はご家族へ連絡し購入してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族や友人との手紙のやり取り支援や、電話が出来るよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者が過ごされる食堂は時間によっては日光が入り眩しくなったり、室温が上がる為、必要な所にカーテンを設置している。温度、湿度計を設置し過ごしやすいよう室温管理をしている。季節を感じる事が出来るよう、季節の花を飾ったり、四季折々の壁画作品を作成している。</p>	<p>季節行事の飾り付けや利用者とする壁掛け作品、所内の花、畑の野菜等で季節の移ろいを感じられる様配慮し、利用者も洗濯物畳みや食事の片付け等を手伝い、生活感のある空間となっている。又、照明を人感センサーに変えたが、自動消灯で利用者が混乱しないよう張り紙をした経緯がある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>廊下に椅子やソファを置き、いつでも利用してもらえるようにしている。人間関係に配慮して会話しやすい方と席が同じになるよう配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人の趣味など好きな物を飾って頂いたり、自宅で使っておられた寝具や家具、テレビ、時計等を使って頂いている。生活して頂きながら、必要なものはご本人、ご家族と相談し、必要物品についてはご家族にお願いしている。</p>	<p>居室にはベッド・エアコン等を設置し、照明の紐スイッチを長く伸ばして使い易くしたり、家で使い慣れた物や本人作の押し花等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。又、利用者によっては衣類をタンスに収納したり、ハンガーラックに吊るして自己管理する人もいます。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレやお風呂の場所が分かるよう表示している。トイレの流し方等、使い方が分かるように表示している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム口和

作成日 令和6年11月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に家族・地域住民の参加が少なく意見交換があまり出来ていない。	運営推進会議にて多様な視点によるサービスの検証が可能な仕組みを作る。	多様な職種の参加促進、事故・ヒヤリ報告等、課題の工夫をすすめる。	1年以内
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。